

横綱の碑と墓に関する文化人類学的研究

上之郷 奈穂*

李 仁子**

日本の伝統競技ともいえる相撲に関する碑は全国各地に各地に見受けられる。その中でも本稿では日本各地にある横綱の碑や墓を題材として、その建立場所や碑文を明らかにすることを試みる。碑は主に横綱の出身地に建てられているが、その数、建立か所ともに1つにとどまらず、複数にわたっているものも多くみられた。碑に関しては何かの記念に際して建てられているというものがいくつか見受けられた。一方の墓であるが、碑と同様に複数建立されているものもあった。ただし、必ずしも出身地に建てられているわけではない。また、碑と比べるとそれほど多くの場所に建てられているわけではないが、墓が複数にわたり建立されているものには分骨されているケースや、亡くなった場所と郷土が一致しない場合にその人物にゆかりのもの、あるいは身柄の代わりとなるものを埋葬しているというケースがあった。

キーワード：相撲碑、墓、碑文

はじめに

相撲は古くから日本で行われてきた競技でその歴史は古く、また今日でも馴染みのある競技である。それもあってか、日本には全国各地に相撲にまつわる石碑が数多く見受けられる。日本書紀に登場し、最初に相撲をとったと言われる野見宿禰の碑、草相撲や大相撲で名を馳せた力士の石碑や像、そのほかにも奈良県桜井市の相撲神社、東京都江東区の富岡八幡宮のような神社には相撲にまつわる石碑がいくつか建立されている。このように全国各地に相撲にまつわる碑が建てられているが、本稿ではその中でも大相撲の番付の最高位である横綱の碑に着目する。

横綱の碑のほとんどは出身地やその力士にゆかりのある土地に建てられている。かつての功績を称えて建立された横綱の石碑のうちいくつかを実際に見に行くと、中には木で覆われて隠れてしまっているものや、人目に付きにくいような場所にひっそりと立っている碑もあった。大々的にその存在をアピールしているとはいえないこれらの碑であるが、これらの石碑は全体でどれほどの数があるのか、またその石碑には何が書かれているのかを明らかにしようというのが本稿の試みである。また、石碑だけではなく横綱の墓も同様に本研究の対象とし、どれほどの数があるのか、またその碑には何が書かれているのかを明らかにすることを目指す。

*教育学研究科 博士課程後期

**教育学研究科 准教授

1, 問題の所在

今日では様々なスポーツが行われており、それらへの関与は実際の競技者としてであったり、その競技のサポーターとしてであったり、あるいは観戦を通してといったように、接し方は様々である。特にプロのアスリートが行う競技を観戦する際には、手に汗握るような緊張感と共にその光景を目に焼き付けるという経験をした人は少なくないだろう。

杉本(1995)は、スポーツの情報は日常的に氾濫しているが、それを伝えているメディアは事実を正確に伝えることよりもむしろいかにそのリアリティを際立たせるか、いかに人々を感動させるドラマに仕立て上げるかにかかっているということを指摘している。我々がメディアから得るスポーツの情報は商品として、より多くの人々の目を引くように創られているのである。さらに杉本は、新聞欄には必ずスポーツ欄があることや、スポーツ専門の新聞、雑誌があることから我々の生活にいかにメディアの届けるスポーツが浸透しているかについても述べている。

一方、本稿で扱う石碑も1つの「メディア」として捉えると、その性質は杉本のいうメディア(=マスメディア)とは大きく異なっている。石碑はより多くの人々の目を引くよう、より商品としての価値が高まるように計算されて作られていると言ひ難いものである。このような碑の性質を浮き彫りにするため、本稿ではその所在と碑文を明らかにすることを通して碑の性質を述べることにしたい。

2, 顕彰するという行為

今日では様々なスポーツがあるが、その中でも、特にプロスポーツにおいてかつての競技者の功績を称えようとする動きが見受けられる。例えば、チーム競技においてはそのチーム内で活躍した人物の背番号を永久欠番として残したり、功労者を表彰したり、野球などにおいては「殿堂入り」といった表彰のされ方がある。本稿で扱う相撲の場合、功績を残した者に対しては石碑という形に残るものを建立している例が多い。そしてその石碑があるのは、ほとんどが力士の出身地や力士にゆかりのある地である。

一般的に碑にはその建てられた目的でいくつかの種類に分けられる。戦争や災害などの犠牲者を祀る慰霊碑、何かの記念として建てられる記念碑、功績を残した人物を称えるために建てられる顕彰碑といったものが挙げられる。何かの意図をもって作られるこれらの碑であるが、本稿で扱う碑はこれらのうちおおそ顕彰碑に分類される。また、本稿で取り上げる横綱を顕彰するために建てられた碑であるが、その形態はさまざまである。わかりやすく「○○之顕彰碑」と刻まれ碑文が書かれた石碑のほか、手形や足形が彫られているもの、廻し姿の銅像、横綱の生い立ちなどに関する詳細な説明が記されている看板などがある。本稿ではこれらすべてを等しく物質文化として扱うこととし、便宜上まとめて「碑」と表記する。

3, 先行研究

相撲碑を扱った文献はあまり多くはないが、山田(1996)による相撲碑についての興味深い記述が見受けられた。江戸時代、相撲好きの若者の中には村の祭礼などに訪れる力の強い力士や有名力士

を師匠とし、弟子入りするということがあった。彼ら師匠のために建てられたと思われる記念碑や墓石があるそうだが、これらの碑は「本来は、相撲界における偉大な功績を讃えて建立されたのであるが、庶民にとっては、生活共同体の安全をまもってくれる神様として信仰されていたようである」(山田, 1996:224)。また、「関取」と「咳取り」という語呂合わせから、咳の出るときに村の関取の碑にお参りをしたり石を削って持ち帰ったりということも行われていた(山田, 1996:225)。ここで取り上げられた石碑には力士の名前のほか、年月日、世話人の名前が彫られているのみで、詳しい功績や生い立ちなどについては記されていない。

4, 横綱の碑

本稿では大相撲番付の最高位である横綱を対象とし、歴代横綱の碑および墓を扱う。歴代横綱に関して誰を初代横綱とするかについては諸説あるが、本稿では日本相撲協会が定めているもの¹に倣い、明石志賀之助を初代横綱とする。初代横綱から数え現在に至るまで72名の横綱が輩出されており、その一人一人に対して碑と墓の所在地と碑文を調査した。調査方法は、全国で見受けられる横綱の石碑や墓の所在地及びそこ記されている内容を主にインターネット(画像検索, グーグルマップによる検索も含む)によって調べた。その結果、石碑・墓ともに複数存在するものや、どちらも存在しないものなど、その建立状況は様々であった。

1) 碑に記された情報

碑に記されている碑文からは、様々な情報が読み取れる。まず、当該横綱の本名、生年月日、両親の名前、身長・体重、没年月日といった項目が挙げられる。それから角界入り後について、どの部屋に入門したのかや、四股名の由来や変遷、また現役時代の戦歴に関してそれぞれの番付ごとに記されていたり、横綱免許を授かった時期、勝率、勝ち星数、優勝回数といった詳細な戦歴が綴られたりしている。また、得意技についても記されているものもある。そして現役を退いた後の功労に関して、相撲協会に所属し後進の育成にあたったことや協会内でどの部署に所属し相撲の発展に貢献したかということのほか、勲四等瑞宝章、国民栄誉賞といった表彰を受けている場合にはその紹介がなされている。また、幼少時よりいかに怪力であったかというエピソードや、碑がかつては別の場所にあり移転して現在の場所にあるという場合にはその移動の経緯、また墓の所在地が記されているものもあった。

碑に記された上記の情報であるが、これらすべてが1つ1つの碑に盛り込まれているというわけではなく、どの情報が記されているかは碑によって異なっている。

2) 碑建立の背景

碑が建てられる背景として、何かの記念に建てられているケースがいくつか見受けられた。例えば市制や町制から何年経ったかを記念して建てられるものや、公共施設落成の記念、生誕何年かを記念して建てられるものなどである。そのうち、碑文を正確に把握できたもの6つを取り上げる。以下、碑文とともにどのような記念で建立されたのかを述べていく。

①第15代横綱梅ヶ谷藤太郎(初代)

第15代横綱梅ヶ谷藤太郎(初代)の碑は3か所にあり、いずれも彼の出身地である福岡県朝倉市にある。それぞれ梅ヶ谷公園、サンライズ杷木、梅ヶ谷の出生地であり、そのうち梅ヶ谷公園にある碑は国技館開創50周年を記念して建てられ、サンライズ杷木にある碑は杷木町制50周年を記念して建てられた。

まず、梅ヶ谷公園にある碑について、ここには碑が5つあるがそのうちの1つが国技館開創50周年を記念して建てられた。以下碑文である。

初代梅ヶ谷藤太郎は古今に冠絶する豪力士なり 弘化二年二月九日筑前国上座郡志波村今の福岡県朝倉郡杷木町字梅ヶ谷に小江藤右衛門の次男として生まる 生来体躯群を超え膂力絶倫少年の時すでに角技に長ずる以て比隣にその聞えあり 文久三年十九才にして大阪相撲の年寄遠由良右衛門の許に入門郷貫の名を取りて梅ヶ谷と称し土俵を踏む 技倆日に進み明治三年三月には大関に達す されど尚晴れの東京相撲に加はりて己の真価を試みんと上京玉垣額之助の門に入る かくて明治四年幕下に附出され爾来ほとんど連戦連勝す 然るに当時東京の角界は大阪より加入の力士に厳酷にして容易に昇進を許さず 七年十二月入幕十二年一月大関に進む その間九年に起りし秋月党の乱には偶々甘木町近くに巡業中なりし為率先僚友力士と共に官軍救援に馳せ参じ奮闘す 十七年春には入幕以来九割六分四厘てふ未曾有の勝率を以て十五代横綱となる 折しも東京芝浜離宮延遼館にて天覧相撲催されたるに際し横綱手数入並に強剛大達との熱戦を大帝の御覧に供す一代の光榮之に過ぐるはなし その盛時五尺八寸三十三貫ありしも横綱当時四十の齢を数え体力漸く衰へ連続二敗を喫するや横綱は不敗たるべしとの平素の信念により引退を決意十九年一月土俵を去り年寄雷権太夫を襲名す 二十二年東京大相撲協会結成とともに取締に任じ業績頗る著大特に四十二年夏開館の国技館建設に際してはその徳望により多額の融資を得てよく完遂したり 弟子に横綱となれる二代梅ヶ谷あり これに雷の名跡をもゆずりて大正四年役を退きたるも依然大雷の尊称を以て景仰さる 昭和三年五月十六日天寿を全うして逝く享年八十四才 今や角界隆昌のうちに国技館開創五十周年を迎え日本相撲協会は追慕の情やみがたくその郷里に碑を建てんとし余に文を請う 余も亦深くこれに賛し因つて略伝を叙し永えに銘ぜんとす

昭和卅四年十一月 文学博士和歌森太郎撰 小野正規書

次に、サンライズ杷木という公共施設に建てられた碑である。この場所には銅像と石碑があるが、石碑の方に町制50周年を記念して建てられたことが記されている。以下碑文である。

第十五代横綱初代梅ヶ谷藤太郎 梅ヶ谷藤太郎は杷木町志波梅ヶ谷に弘化二年(一八四五)三月三日、小江藤右エ門・トメの次男として生まれる。幼少のころより怪童として知られ文久二年(一八六二)十八才の時懇望され相撲力士になる決意をし大阪相撲の「湊部屋」に入門する。土俵成績はすばらしく七年後の明治三年には最高位東方大関に昇進した。しかし己の真価を試さんと

上京し江戸相撲の名門「玉垣部屋」に入門する。明治四年幕下序の口に付けだされ連戦連勝する。大阪相撲出身ということで冷遇を受けるが忍耐と努力と実力で困難を乗り越え明治十二年一月最高位の大関となる。明治十七年第十五代横綱に推挙され同年三月十日明治天皇の天覧相撲の栄に浴し堂々と横綱土依入りを果す。土俵成績は歴代横綱中最高位、勝率九割五分一厘を誇り角界に燦然と輝いている。引退後は雷権太夫を襲名し年寄りとなり相撲道の興隆に心血を注ぎ旧国技館の建設や三十年間に立って取締役を務めるなど相撲協会の発展に生涯を捧げる。相撲協会は彼の偉大なる功績と人徳に対し大雷と尊称し、大相撲中興の祖として敬慕されている。

ここに把木町制施行五十周年記念と顕彰事業推進を祈念し偉大なる英雄の顕彰を永く後世に伝えるためその勇姿を銅像として建立する。平成十三年十一月

②第18代横綱大砲万右衛門

第18代横綱大砲万右衛門の碑は生誕130周年を記念し、彼の出身地である宮城県白石市の白石城に建てられた。白石城には銅像が1つ、石碑が1つ建てられている。このうち銅像が生誕130周年を記念して作られたものである。もう1つの石碑であるが、そこに記された「待乳山ハ此建碑ノ翌年則大正七年五月廿七日東京本所松坂町自邸二於テ卒ス享年五十三」という碑文から大正6年に作られたことが窺える。以下、銅像に記された碑文である。

第十八代横綱 大砲萬右衛門等寸像(本名 角張萬治) 明治二年十一月二十八日、父萬吉の長男として、白石市大鷹沢三沢字唐竹に生まれる。少年のころ、六十キログラムの米俵を両手に軽々と掲げ町まで運び、「三沢の怪童」と呼ばれた。明治十七年、年寄尾車文五郎の門に入り、郷里の地名にちなみ、しこ名を「三澤滝」と称した。身長198センチメートルの巨漢であった。明治二十一年しこ名を「大砲」と改める。明治三十四年四月三日、第十八代横綱に推挙され一世を風靡した。大正七年五月二十七日没す。生誕百三十年にあたり多くの有志とこの像を建立する。平成十一年十一月二十八日白石市長 制作 日本芸術院会員 中村晋也 題字 白石市長 川井貞一 有志: 社団法人白石青年会議所 白石商工会議所青年部 大砲会 白石市自治会連合会 大鷹沢支部

③第19代横綱常陸山谷右衛門

第19代横綱常陸山谷右衛門の碑は4か所にわたって建てられている。いずれも彼の出身地である茨城県水戸市にあり、堀原運動公園、水戸東照宮、生誕地(住宅街の一角にあり)、青柳公園市民体育館の4か所である。そのうち、水戸市制100周年の記念で建てられたものが堀原運動公園と生誕地にある。まず、堀原運動公園には銅像と石碑があり、石碑に市制100周年を記念に建てられたことがわかる文言が記されている。以下碑文である。

日本近代相撲の父「角聖」常陸山谷右衛門は、優れた人格と生来の学識、才能を發揮し、日本角界の改革、地位向上に不動の功績を残した。

旧水戸藩士、市毛高成の長男として一八七四年一月十九日、水戸宝鏡院門前（現、水戸市城東）に生まれ、旧制茨城中学（現、水戸一高）を中退後、十九歳で角界に入る。一九〇三年、第十九代横綱に推挙され「梅ヶ谷」と人気を二分し、明治期後半から大正初期にかけての大相撲黄金時代を築いた。横綱在位十一年、八十三勝十敗十七引き分け二預りの成績を記録。欧米各国訪問ホワイトハウスで土俵入りを披露。国技館の優勝掲額第二号に雄姿を飾る。引退後、五代目出羽海を襲名、取締に就任、初のアメリカ巡業を成功させた。一九二〇年、焼失した国技館を再建、今日の角界隆盛の基礎を築いた。一九二二年六月十九日、本所相生町の自宅で四十八歳の生涯を終え、生地水戸市酒門の共有墓地に静かに眠っている。ここに「角聖」常陸山の功績を顕彰し県民各位のご協力のもとにモニュメントを建立する。一九八九年七月二十日 水戸市制百周年記念 常陸山顕彰事業委員会 会長 佐川 一信 新いばらきタイムス社 社長 鈴木 正樹 各界、各層のご協力者一六〇名

もう一か所、生誕地にも市制100周年を記念して建てられた石碑がある。この場所にはほかにも銅像と立て看板があるが、石碑の碑文に市制100周年を記念して建てられたということが記されている。以下碑文である。

常陸山谷右衛門生誕地 水戸市長 佐川一信 書 この碑は、わが国の近代相撲の礎を築き、角界に多大な功績を残した、第十九代横綱「角聖」常陸 山谷右衛門の偉業を讃え、水戸市制百年を記念、顕彰事業に賛同した人々の協力と篤志により、明治 七年呱呱の声をあげた生誕の地、旧宝鏡院門前町に建立、顕彰するものである。

一九八九年九月吉日

常陸山顕彰事業委員会 会長 佐川一信 新いばらきタイムス社 社長 鈴木正樹 協力者一六〇名

④第29代横綱宮城山福松

第29代横綱宮城山福松の碑は2か所にあり、いずれも彼の出身地である岩手県一関市にある。そのうち1か所は彼の生家跡、もう1か所は円満寺である。生家跡に建てられている碑は、彼の生誕130周年を記念して建てられた。以下碑文²である。

(表) 二十九代横綱出生地 宮城山福松 四代目 高砂浦五郎 書

(裏) 初志貫徹への不撓不屈の精神力が横綱宮城山の名をなさしめたことを岩手国体開催の年を記念し本碑を建立する

一九七〇年八月吉日 発起人代表（※以下発起人の名が記されているが省略する）

また、この碑のすぐ近くに看板も掲げられており、そこにはより詳細な生い立ちや碑建立の背景が記されている。

第二十九代宮城山こと佐藤福松が明治四十年大志をいだいてみちのくの片田舎から上京し一時は理髪店の徒弟奉公をし辛苦の道を歩み 念願の相撲の道に入り出羽の海部屋の秘蔵弟子「岩手山」としてその道に精進しその後大阪相撲の高田川部屋に移籍しました 神童と言われ持って生まれた負けん気から日夜血のにじむような努力を積み重ね大正五年幕の内に昇進し大正十一年には念願の横綱を吉田家から授けられその道の最高位につきました なかでも昭和二年東京相撲と大阪相撲が合併して大日本相撲協会が新発足した初場所において西の横綱常の花にこそ惜敗しましたが十勝一敗の好成績で優勝し東京国技館に最初の優勝額をかかげました 又昭和五年宮中における天覧相撲の際には晴れの土俵入りを勤める等晩年の宮城山は幸運に恵まれたのであります 昭和六年横綱を引退 一年寄芝田山として後輩の指導に専念し昭和十八年四十九歳で他界せられました このたび第二十五回岩手国体開催の年を記念し横綱宮城山の功績を後世に残すため有志相謀り第四代高砂親方の揮毫による 第二十九代横綱宮城山福松出生地の碑を建立することと致しました

昭和四十五年八月二十六日 横綱宮城山福松出生地記念碑建立発起人会 一関市教育委員会

⑤第35代横綱双葉山定次

第35代横綱の双葉山定次の碑は2か所にある。1か所目は彼の出身地である大分県宇佐市にある宇佐市総合運動場で、像と石碑が建立されている。もう一か所は同じく宇佐市にある双葉山資料館である。このうち、宇佐市総合運動場の双葉山像は、宇佐市総合運動場の落成記念として建立された。以下碑文である。

第三十五代横綱双葉山定次之像 宇佐市が生んだ大横綱双葉山は、不滅の六十九連勝をはじめ、五場所連続全勝優勝記録や、日本相撲協会理事長としての業績等、厳しい相撲道を不撓不屈の精神で追求しつづけた生涯は、人々の心に今なお昭和の大横綱として燦然と輝くものがある。ここに宇佐市総合運動場落成記念と、顕彰事業推進を祈念し、偉大なる英雄の顕彰を永く後世に伝えるため、その勇姿を銅像として建立する。

建立日 平成五年十二月三日

建立者 宇佐市長 四井正昭 制作者 京都教育大学名誉教授 山崎正義

⑥第50代横綱佐田の山晋松

50代横綱の佐田の山晋松の碑は、彼の出身地である長崎県有川町の町制施行70周年を記念し、有川港ターミナルに建てられた。廻し姿の全身の像とともに碑文が記されている。以下碑文である。

第五十代横綱 佐田の山関之像 有川町が生んだ第五十代横綱佐田の山は、昭和三十一年一月に初土俵を踏み、五島の大自然と生活の中で鍛えた強靱な体と不屈の闘志で殊勲、敢闘、技能の三賞をはじめ六度の幕内優勝を果たしました。引退後は伝統ある出羽海を襲名し、多くの弟子を育てると共に日本相撲協会理事長として数々の業績を残しました。ここに町制施行七十周年を記念し、偉大なる英雄の顕彰を永く後世に伝えるためにその姿を銅像として建立する。

建立日 平成十四年十月十七日

建立者 銅像建立実行委員会 委員長 井上俊昭 揮毫 三十代木村庄之助

制作者 山崎和國

以上、何かを記念して建てられた碑を6つ提示したが、市制や町制の施行から何年経ったかを記念するもの、横綱生誕から何年経ったかを記念するもの、さらには施設の落成や開創から何年経ったかを記念して建てられるものであった。このように、何か記念事があった場合にその地域から誕生した横綱を引き合いに記念事業として顕彰するケース、また横綱の生誕から何年経ったかを記念して顕彰するケースに大きく分けられる。

3) 碑の総数

一人の横綱につきどれほどの碑が建立されているかを調べたところ、碑が建てられていない横綱が26名と最も多かった一方、一人の横綱に対して建てられる碑の数は最大で8基あった(表1参照)。

表1 碑の数と横綱の人数

| 碑の数 (基) | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|--------------|----|----|---|---|---|---|---|---|---|
| 横綱の 人数(人) | 25 | 23 | 8 | 4 | 6 | 2 | 0 | 1 | 3 |

※墓と同じ場所に建立されている顕彰碑も含む。

最も多い8基の碑が建てられた横綱は第12代横綱の陣幕久五郎、第15代横綱の梅ヶ谷藤太郎、第55代横綱の北の湖敏満である。

第12代横綱陣幕久五郎の碑は5か所にわたって建立されている。まず出身地である島根県松江市東出雲町に2か所、弟子入り先である広島県尾道市に2か所、生涯を終えた地である東京都に1か所碑が建てられている。第15代梅ヶ谷藤太郎は前述の通り、出身地である福岡県朝倉市に3か所にわたり碑が建立されている。第55代横綱北の湖敏満の碑は3か所、出身地である北海道有珠郡壮瞥町の北の湖記念館、当時の三保ヶ関部屋の名古屋場所宿舎であった法持寺、そして北の湖が檀家としていた神奈川県川崎市の川崎大師平間寺にそれぞれ碑が建てられている。

また、碑は1か所にまとまってあるのではなく複数か所に建立されているものもあった。多いものでは5か所にわたって碑が建てられている(表2参照)。

表2 碑の建立か所と横綱の人数

| 碑の建立か所 | 1か所 | 2か所 | 3か所 | 4か所 | 5か所 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 横綱の人数(人) | 29 | 9 | 6 | 1 | 2 |

このうち、最も多い5か所に石碑があるのは第12代横綱の陣幕久五郎と、第58代横綱の千代の富士貢である。第12代横綱の陣幕久五郎に関しては前述の通りで、第58代横綱の千代の富士の碑は京都府京都市に1か所、岩手県花巻市に1か所、東京都に2か所、北海道に1か所である。まず京都市にある碑は妙心寺という寺にあり、この寺で開催されている紅茶を楽しむ会に現役時代から参加していた縁で建立された³。岩手県花巻市にある碑は成島三熊野神社にあるもので、この神社で行われる泣き相撲大会に行司として1992年に参加した千代の富士と千代の富士の兄弟子を顕彰し、また30回目の開催となる泣き相撲大会の記念事業として碑が建てられた⁴。東京都には2か所あるが、そのうち1か所は九重部屋前で、もう1か所は菩提寺である玉林寺である⁵。北海道にある碑は、千代の富士の出身地である北海道前郡福島町にある横綱千代の山・千代の富士記念館に建てられている。

4) 最も古い碑

すべての碑の中で一番古いものは第4代目横綱谷風梶之助のものであった。この碑は谷風の出身地である宮城県仙台市の東漸寺に建てられている。横綱の碑のなかには碑文が読めないものもいくつか見られたがこの碑は寛政7(1795)年に建てられたことから、これが最も古いと考えられる⁶。以下碑文である。

(表) 积性谷響了風 谷風梶之助碑

(裏) カス谷風姓源氏金子小字与四郎世業農父弥右衛門母某氏寛延三年庚午八月八日生于宮城郡霞目邑性有力比九歳能負斗米行数歩里人驚歎為神 童幼戲好相撲顧異邦角觥之属者乎吾朝權輿於神代以降以野見宿禰当麻蹴速為創業此技丈夫壯觀而分曹別隊振古称左右後世換東西各立魁曹称最手役今謂大関監上古帝勅立指揮曹部折断勝敗無偏無陂為褒貶者謂之御行司今也熊本侯之臣吉田氏追風者自先世業之蓋谷風長八尺余力能扛鼎年僅十九矣甫選其旧称秀山頗著逸群之兆藩族卿片倉氏為臣僕俸資勉業始出于東都及京洛技場又更達箇関揄揚甚矣曩者有先魁谷風遺譽籍於人口後進当其量則衆議以襲称其名旧有例嘗無其人而達箇関能当之故改日谷風称梶之助名守胤年已二十七矣弟某亦善其技於是与己所称以名達箇関近吉田氏使谷風容門下力士且得授横綱之冠蓋帶装腰之物而副与秘書力士之称或所同也網所独也於技得歆羨子時寛政三年辛亥六月十一日幕府命觀其技谷風為西曹最手役敵於東方魁某者勝之則賜懸弧是例也雄名雷震搥腕抵掌其党之喜可知矣尋又有命六年甲寅五月二十二日復勝東魁敵者褒賜如旧於是乎無雙之名洋溢乎天下先是其父病将死乞傍人啓其手書日本一字於掌上即言余竊念吾子之業以之称焉既吾命在旦夕無日待之前祈復示勸獎之微志耳未幾果如其言人皆感父之鑑戒云其為人惟孝友于兄弟惠愛鄉党不忘發於畎畝之中能肯播穫之業增益田宅補給産其常教技不惰四支無驕且吝梗概如此今茲罹疾死七年乙卯正月九日

年四十六葬于里中先塋之側表其墓嚮当在東都妻太田氏以婦実家生四男長子某為嗣而其数友深悼惜戮力欲別復立碑于城南東漸寺勒其事侍良明材長沢畑氏憇之且掌之来謀於余願乞文学先生之言以為不朽乃謂道不同雖則不可相為謀乎淳興于大国觀其光不可不記故按其略叙其人繁以銘日名洽四国 惟以力通 鷹揚鵬擊 広誉令終 寛政七年乙卯初秋 僊台新井源義路撰併書

5) 外国人横綱の碑

歴代横綱の中には海外出身の力士が6名いる。ここ最近では外国人横綱(日本国籍を取得している場合もあるが、ここでは便宜上海外出身横綱のことをまとめて外国人横綱と表記)が圧倒的に多くなっているが、初の外国人横綱は第64代横綱の曙太郎である。彼は1988年3月に18歳で初土俵を踏んでおり、横綱在位期間は1993年3月から2001年1月となっている。その後の外国人横綱は第67代武蔵丸光洋、第68代朝青龍明德、第69代白鵬翔、第70代日馬富士公平、第71代鶴竜力三郎と続く。曙、武蔵丸はともにアメリカハワイ州オアフ島出身であるが、朝青龍以降は全員モンゴル出身となっている。彼ら外国人横綱にも碑があるのか調べたところ、曙の像のみ把握することができた。ハワイのワイマナロ・タウンセンターというショッピングセンターに建てられている像で、その姿はまるで取組をしているかのような躍動感のある恰好である。また、像の正面には以下のような碑文が見られた。

Akebono
Yokozuna Grand Champion
Since 1993
Sculpture by KaMille
Call KaMille to create sculpture for you
808-383-3300
WAIMANALO TOWN CENTER

この碑文には具体的な功績が記されているわけではなく、むしろ製作者の連絡先が記載されていることから製作者の宣伝も兼ねていることが窺える。⁷

ここ最近外国人横綱が続いているが、それに続く横綱は第72代の稀勢の里寛である。彼は歴代横綱の中で一番新しい横綱であるが、既に彼の碑は建てられていた。その場所は稀勢の里の出身地である茨城県牛久市の牛久駅東口である。この碑には彼の手形と彼の直筆で「稀勢の里寛」と記されている。さらに碑には「平成二十九年一月二十五日」とあることから、横綱昇進を記念して建てられたものであろう(稀勢の里の横綱在位期間は2017年3月から2019年1月である)。現存する横綱の碑の中では最も新しい。

5, 横綱の墓

墓は碑のように新たに建立されるということはないだろうが、それでも墓のすぐ近くに看板が立てられており、その横綱の生い立ちなどが記されているものも見受けられた。本節ではどれくらいの墓が建立されているのか、また、墓にはどのようなことが記されているのかという2点を述べる。

まず横綱の墓の数に関して、碑に比べるとその総数は劣るが複数の場所にわたって墓が建てられているケースも少なくない(表3参照)。なお、墓の近くに詳細な生い立ちなどを説明する看板や墓誌などが建立されているケースもあるが、ここではそれらを含めて1つの「墓」として扱うこととする。

表3 墓の建立か所と横綱の人数分布

| 墓の建立か所 | 0 | 1 | 2 | 3 |
|----------|----|----|----|---|
| 横綱の人数(人) | 26 | 28 | 15 | 3 |

※0となっているものに関しては、墓がないということではなく今回の調査では把握できなかったものも含めている。
 ※0となっているもの(26名)のうち15名は存命である。

最も多いものは3墓となっており、第9代横綱秀の山雷五郎、第16代横綱西ノ海嘉治郎、第20代横綱梅ヶ谷藤太郎の墓である。所在は把握できたがなぜ墓が複数か所に建立されているのか、また墓に刻まれた文字をすべて性格に把握するには至らなかった。ただし、第20代横綱の梅ヶ谷藤太郎に関して富山県富山市にある蓮勝寺の墓の脇にある看板には以下のような説明書きがあった。

横綱梅ヶ谷の墓 梅ヶ谷藤太郎は、明治十一年(一八七八)西水橋町の薬種商、押田喜平の四男として、この地に生まれた。明治二十三年、富山へ地方巡行にきた東京相撲の大開剣山に見いだされ、初代梅ヶ谷(第十五代横綱)の養子となり相撲界に入った。満十二才の時である。翌二十四年五月に初土俵をふみ、三十一年満二十才で入幕。三十六年には二十五才で、第二十代の横綱となった。当時としては、前例のない若さであった。「技は梅、力は常陸」の梅ヶ谷・常陸山時代を迎え、明治力士の模範といわれて、国技大相撲の全盛時代をつくった。大正四年に引退するまで、勝率八割六分、昭和二年九月、北陸巡行中、新潟県三島郡与板町で死去、年四十九才。東京都大田区池上の実相寺に葬られる。分骨されてここ生家の墓に眠る。

平成五年 富山市

このことから、分骨されたため複数個所に墓があるということが把握できた。

また、第3代横綱の丸山権太左衛門の墓は郷土の宮城県登米市米山町の松壽院と、亡くなった地である長崎県長崎市本河内町の本河内郷墓地内の2か所にある。このうち松壽院にある墓の脇に建てられた看板を見ると、以下のように記されている。

第三代横綱 丸山権太左衛門 正徳三年(西暦一七一三年)遠田郡中津山村城内の芳賀家に生れ、名は銀大夫と名付けられた。芳賀家は、仙台藩御一族の筆頭大立目家の●臣である。銀大夫は

享保十四年八月(西暦一七二九年)伊達五代藩主吉村公の江戸参勤の供に加わり江戸に登り相撲界に入る。銀太夫は九山権大左所門の四股孝で、元文二年(西暦一七三七年)大関となり、以後大関、横綱と在位中、十三年間に敗れたのはただの二回だけであとは負け無しの無敵ぶりであったと伝えられている。寛延二年十一月十四日(西暦一七四九年)長崎市の梅園での相撲興行中に疫病になり十三名の名医の治療もむなしく客死した。長崎市の皓台寺で葬儀を終え、一の瀬街道(長崎市本河内町)の墓地に葬られた。享年、三十七歳であった。郷土の松寿院には、遺髪と鏡が葬られたと伝えられている。当松寿院の丸山堂には、九山権太左衛門が生前隣家山住家に土産として持ち帰ったと伝えられている「たもと石」と、生前、米●き等に用いたと伝えられている「石臼」が保存されている

この丸山堂は昭和二十二年(西暦一九四七年)九山関の偉大なる功績を後世に末長く伝えたく中津山地区有志相謀り、九山関没後二百年の追善供養として建立されたものであるが、以来半世紀にもなり破損が甚しく、平成六年六月二十三日、老人方々の志を継承し丸山関題彰会発足を期に堂の修復工事を行い、同年十月十八日には丸山堂移転復元落慶法要が行われている。平成七年四月十四日 米山町教育委員会 米山町文化財保護審議会

※●は読めなかった文字である。

このように、横綱に至るまでの生い立ちや、没後墓が建立されるまでの経緯、また修復の経緯が記されている。そして、亡くなった地である長崎県長崎市に墓が建てられ、郷土には遺髪と鏡が葬られたということがわかる。また、『相撲の史跡4』によると、遺髪、鏡のほかには爪も埋葬されているとある(相撲史研究会, 1985:47)。

墓に記された碑文に関して、正面に「○○之墓」と彫られているほか、戒名や享年、没年月日といった情報が記されているものが多かったが、碑と同じように横綱の生い立ちや戦績も記されているものもあったり、またそれらの情報を直接墓石ではなく、近くに看板や別の碑を建ててそこに記しているというものも見受けられた。

6, 考察・今後の課題

全国に見られる横綱の碑や墓について述べてきたが、まず、これらの碑や墓は複数にわたって建立されているケースも見受けられた。碑に関して、まず碑の建立地は圧倒的に出身地であるケースが多い。また、既に碑が建てられているものであっても、何かの記念や何かの節目の年に、既にあるものと同じ場所に重複する形で新たに建てられるというケースも見受けられた。また、そこに記された碑文や碑のすぐ脇にある看板には横綱の生い立ちや戦績、引退後どうしたかということや、没年月日や墓の所在といった情報が盛り込まれている。まちおこしのような大々的な目的はなくとも、横綱が輩出された土地であるという地域のアイデンティティとして、何か形に残るものとして碑が建てられているということが窺える。一方、墓に関しても複数個所にわたって建立されている

ものもあった。その背景には、分骨をしているケースや、亡くなった場所と出身地が異なる場合には、郷土にもその人物ゆかりのものや身柄に代わるものが埋葬されているケースがあった。墓に関しては墓石に刻まれた墓碑銘などは性格に把握するのが困難であったため、今後さらなる研究を進めていくこととしたい。

謝辞

本稿作成にあたり、韓国学中央研究院・海外韓国学萌芽型育成事業研究による奨学金の支援を受けている。この場を借りて感謝申し上げたい。また、本稿作成の上で一番肝要な作業である、横綱の碑および墓の所在地を調べ上げる作業は同じ研究室に所属している学部生の井上千晴さん、清川雅文さんの協力を得て完成に至った。本稿作成の上で貴重な戦力となったこと、この場を借りて心よりお礼を言いたい。

【注】

1. <http://www.sumo.or.jp/Yokozuna> 参照。また、各横綱の出生地、生年月日、横綱在位期間といった情報は『相撲観戦入門2020』を参照している。
2. 「相撲の史跡4」参照
3. 産経 WEST (<https://www.sankei.com/west/news/171016/wst1710160027-n1.html>) 参照
4. 朝日新聞デジタル (<https://www.asahi.com/articles/ASK4L4WQ8K4LUJUB00J.html>) 参照
5. 日刊スポーツ (<https://www.nikkansports.com/sports/sumo/news/f-sp-tp3-20110602-784724.html>) 参照
6. 1795年以前に横綱になった力士は谷風含め5名おり、谷風を除く4名のうち1人は碑がなく、その他のもののうち碑の建立日が記載されていないものに関しては碑文の鮮明さから谷風の碑が最も古いと判断した。
7. ただし、旅行サイト4travel.jpの口コミによると、今では碑はないという情報も見られた。(https://4travel.jp/os_shisetsu/10505086)

【参考文献】

- 杉本厚夫(1995)『スポーツ文化の変容—多様化と画一化の文化秩序—』世界思想社
山口亜土／下家義久／門脇利明／十枝慶二 編(2020)『相撲観戦入門2020』ベースボール・マガジン社
山田知子(1996)『相撲の民族史』東京選書
相撲史跡研究会 編(1985)『相撲の史跡4』相撲史研究会

【参考 URL】

- 日本相撲協会 「歴代横綱一覧」<http://www.sumo.or.jp/Yokozuna> (閲覧日:2021/3/29)
4travel.jp 「ワイマナロタウンセンター」https://4travel.jp/os_shisetsu/10505086 (閲覧日:2021/3/29)
産経 WEST 「『昭和の大横綱』千代の富士の顕彰碑を建立 ゆかりの京都・妙心寺で落慶法要」<https://www.sankei.com/west/news/171016/wst1710160027-n1.html> (閲覧日:2021/3/29)

横網の碑と墓に関する文化人類学的研究

朝日新聞デジタル「岩手」 「泣き相撲」舞台の神社に千代の富士らの顕彰碑」

<https://www.asahi.com/articles/ASK4L4WQ8K4LUJUB00J.html> (閲覧日:2021/3/29)

日刊スポーツ「千代の富士のブロンズ像がやっと除幕式」

<https://www.nikkansports.com/sports/sumo/news/f-sp-tp3-20110602-784724.html> (閲覧日:2021/3/29)

A Cultural Anthropological Study on Monuments and Tombs of Yokozuna

Naho KAMINOGO

(Graduate Student, Graduate School of Education, Tohoku University)

Inja LEE

(Associate Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

There are monuments of sumo, which is a traditional sport of Japan. In this paper, we clarify the place of construction and the inscriptions on the monuments and tombs of Yokozuna in Japan. These monuments are mainly built in the Yokozuna's hometown, but there are many monuments per person that are distributed at several places. Several monuments and tombs were built to commemorate something. However, tombs are not necessarily built at the birthplace. Moreover, there are less number of tombs than monuments. In some cases, the cremains were dispersed, While in other cases, something related to the person or the substitute for the person is buried.

Keywords : Sumo monuments, graves, inscriptions